

武蔵野大学ボランティアセンター

ボランティアに関する情報を発信しています！



Topics

1.《単位認定対象》

有明こども園保育補助ボランティア募集！

初の単位認定対象の学内ボランティアです。ぜひご応募ください！

2.摩耶祭出店！ボラセン企画で学生講演を実施します

「なぜ「海外」ボランティアなのか」をテーマに摩耶祭同日に学生講演を開催いたします！

3.本学学生の活動が多数メディアで紹介されました！

武蔵野大学の学生が災害ボランティア活動の仕組みづくりに神奈川県初の長期インターンとして参加しています。

4.学生ボランティア募集中！

本学センター登録団体より募集のあるボランティアを紹介しています。



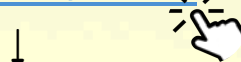
ボラセン通信

1.《単位認定対象》

有明こども園保育補助ボランティア募集！

有明こども園で保育補助ボランティアを募集しています！
こちらのボランティアは条件を満たした場合に単位認定制度の対象となります。

【申請の流れ】 ① 応募フォームより希望申請



② 応募多数の場合、志望動機などより選抜の上、採用可否を連絡いたします。



③ 活動計画書の提出

活動時間等は、こども園と調整後提出となります。



④ センターで承認後、活動開始！



▼ 詳細は、以下のMUSCAT通知をご確認ください。

送信者：武蔵野大学ボランティアセンター（学生支援課・武蔵野学生支援課）

メッセージ種別：45.ボランティア

タイトル：《単位認定対象》有明こども園 保育補助ボランティア 募集！

2. 摩耶祭出店！ボラセン企画で学生講演を実施します

ボランティアセンター企画として
「なぜ「海外」ボランティアなのか」をテーマに摩耶祭同日に学生講演を開催いたします！

テーマ：学生講演「海外ボランティア 第一弾」
なぜ「海外」ボランティアなのか

在校生、卒業生、NPO法人から海外ボランティアのリアルを発信します！

開催日時：2025年10月12日(日) (摩耶祭同日開催)

時間：12:00～13:30

場所：武蔵野キャンパス 1号館1階1103教室

《Time Table》

12:00 Opening

12:05 大平 朱莉 (教育学科3年)
「やりたいを実現した海外ボランティア」

12:20 船山 梨音子 (25'薬学科卒業)
「海外ボランティアで見つかる！初めましての自分！」

12:35 高野 智大 (24'教育学科卒業)
「自分の世界が広がる海外ボランティア」

12:50 NPO法人NICE 諸藤 凌太郎氏
「君の力が世界を変える！初めての方へ向けた、国際ボランティアのすすめ。」

ZOOMでもライブ配信



在学生、卒業生、
NPO法人から
海外ボランティアの
リアルを発信します！

摩耶祭@武蔵野キャンパス

大平 朱莉
教育学科 3年

2025.10.12.sun
12:00pm/ 1号館 1階1103教室



船山 梨音子
25'薬学科卒業

学生講演「海外ボランティア 第一弾」
なぜ「海外」ボランティアなのか



高野 智大
24'教育学科卒業



NPO法人NICE
日本国際ワークキャンプセンター
諸藤 凌太郎氏

《Time Table》

- 12:00 Opening
- 12:05 大平 朱莉 (教育学科 3年)
「やりたいを実現した海外ボランティア」
- 12:20 船山 梨音子 (25'薬学科卒業)
「海外ボランティアで見つかる！初めましての自分！」
- 12:35 高野 智大 (24'教育学科卒業)
「自分の世界が広がる海外ボランティア」
- 12:50 NPO法人NICE 諸藤 凌太郎氏
「君の力が世界を変える！
初めての方へ向けた、国際ボランティアのすすめ。」

武蔵野大学ボランティアセンター2025企画

学生講演
Zoom配信



黎明祭@有明キャンパス
講演資料展示予定

学生講演「海外ボランティア 第一弾」 なぜ「海外」ボランティアなのか Profile

大平朱莉 教育学部教育学科 3年生

大学3年生を休学して、セブ島に渡航。
そこで見た貧困のリアルを通して、子供達と
向き合うためにスラム街の子供達と時を過
す。その後は、努力が報われる世界を目指
すためにアフリカに渡航しソーシャルビジネス
に取り掛かっている。



松山梨音子 2025.3 薬学部薬学科 卒業

大学1年次から4年次まで国内で子どもと
関わるボランティア活動を経験し、国内だけ
でなく海外でのボランティア活動に興味を持
った。そして、5年次の夏に初めてラオスで
の海外ボランティアを経験し、ボランティア
活動の面白さに引き込まれていった。2025年
4月に本校を卒業し、現在は薬剤師として総
合病院で勤務している。

高野智大 2024.3 教育学部教育学科 卒業

2021年3月にNPO法人グッドの学生交流プロ
グラムに参加。グッドの活動に関わる中でワ
ークキャンプ（宿泊型ボランティア）に興味を持
ち、国内のプログラムや2023年春～2024年春に
かけて、3回スリランカキャンプに参加。2024年
春にNPO法人NICEのアイスランドキャンプに参
加。昨年度、小学校で2年生の担任をし、2025年
9月から鉄道会社に勤務している。



国際ボランティアNGO NICE（ナイス）

NPO法人NICEは、1990年に誕生した国際ボランティアNGOです。
これまで日本と世界の約90か国で8万人以上が参加し、環境や教
育、地域づくりなど様々な活動を行っています。

活動報告、募集中のボランティア情報等、
会場にて展示・ご案内します！ご来場お待ちしております！

3.神奈川県初の長期インターン

災害ボランティア活動に本学学生が参加



実習プログラム：

より多くの大学生が災害ボランティア活動に参加できる仕組みづくり


参加者：

アントレプレナーシップ学部 3年生
竹内 啓介さん、中原 勇人さん


神奈川県は、武蔵野大学アントレプレナーシップ学部の3年生2名を、災害ボランティア活動の仕組みづくりに取り組む長期インターンプログラムに受け入れました。


このプログラムは、大学生が7ヶ月間、県庁での就業体験を通じて、災害ボランティア活動への参加促進策の制度設計に学生の視点を反映させることを目的としています。

NEWSLETTER
2025.Vol_12




神奈川県
Kanagawa Prefectural Government






防災・緊急情報



選んで探す



分類から探す

[ホーム](#) > [神奈川県記者発表資料](#) > 武蔵野大学の学生を長期インターンプログラムで受け入れ

[印刷用ページを表示](#) 初開公開

武蔵野大学の学生を長期インターンプログラムで受け入れ

～災害ボランティアの仕組みづくりに学生の視点を反映します～

2025年09月04日
記者発表資料

県では、武蔵野大学アントレプレナーシップ学部の3年生2名を2025年9月から長期インターンプログラムとして受け入れます。本プログラムは、大学生が7ヶ月間、神奈川県庁で「より多くの大学生が災害ボランティア活動に参加できる仕組みづくり」に取り組む、全国でも珍しい長期の就業体験です。学生の視点を県の制度設計に反映しながら、被災地への持続的な支援体制の構築を目指します。

1 大学生の長期インターンプログラム

県では、大学生の夏休みや春休みに神奈川県庁体験プログラム（インターン）を実施し、神奈川県庁における就業体験の機会を提供していますが、今回のような長期インターンプログラムは初となります。

(1)期間：令和7年9月4日（木曜日）から令和8年3月31日（火曜日）

(2)実習プログラム：『より多くの大学生が災害ボランティア活動に参加できる仕組みづくり』

今回受け入れる大学生は、武蔵野大学アントレプレナーシップ学部（注記）で、能登半島地震の際に災害ボランティア活動の実践経験を持つ2名です。制度設計や関係者との調整などの仕組みづくりの現場を体験していただくとともに、学生の視点を県の制度設計に反映していきます。

（注記）武蔵野大学アントレプレナーシップ学部は、日本で唯一のアントレプレナーシップ学部として2021年に開設しました。以来、『世界の幸せをカタチにする。』という武蔵野大学のブランドステートメントに基づき、高い志と倫理観を持ち、失敗を恐れずに挑戦し、新たな価値を見出し、創造していくアントレプレナーシップを持つ人材を育成しています。

2 大学生による災害ボランティアの現状

令和6年1月の能登半島地震では、多くの若者が自主的に被災地へ駆けつけ、泥かきや炊き出しなどの支援活動を行いました。こうした大学生たちの姿は、住民の心の支えとなり、社会的にも大きな反響を呼びました。

一方で、大学生が災害ボランティアとして活動する際、授業の欠席や旅費・宿泊費の自己負担など、多くのハードルが存在しており、仕組みとしての整備は進んでいません。県では、災害発生時に、県内在住や県内大学に通う大学生が、安心して被災地での災害ボランティア活動に参加できる仕組みづくりを、大学・民間・行政等の関係機関との連携によって進めていきます。

3.神奈川県初の長期インターン

災害ボランティア活動に本学学生が参加

参加学生の意気込み

大きな地震や災害は必ず起こり、多くの被害が出ることは避けられないが、どのように行動すべきかを正しく理解している人の数によって、救われる命があると考える。インターンを通して、まだ災害を目にしたことも、経験したこともない大学生に、被災地に足を運ぶ機会をより多く提供したい。災害で悲しむ人を1人でも減らすことが私のこの活動の原動力。

竹内 啓介さん

能登半島地震で地元新潟も被災し、災害ボランティアとして現地に入った。被災者に寄り添う支援の必要性和同時に、活動の継続性や学生の負担といった課題を実感した。単発的な支援ではなく、都市部の学生が気軽に継続的に関われる仕組みを作りたい。学生と地域を繋ぐ持続可能な仕組みづくりに挑戦し、災害対応に新たな価値を創造していく。

中原 勇人さん

NEWSLETTER
2025.Vol_12

多数メディアで紹介されました！

神 奈 川 新 聞
2025.9.12

大学生が災害ボランティアとして継続的に参加しやすい仕組みをつくらせと、県が被災地で活動実績がある学生2人を長期のインターンプログラムで受け入れている。金銭的な負担や学校の授業といった多くの課題が壁となる中、豊富な経験がある学生の視点を生かし、支援体制の構築を目指す。
(松村祐介、岩崎千晶)

県、初の長期インターン
災害支援に学生の力を

地元の被災者が被災、2004年の新潟県中越地震、11年の西日本大震災も経験している。県でも、大学生が加算があっても、交通費や宿泊費などの自己負担、授業の長期欠席などが課題となっている。一部の学生で災害ボランティア活動の単位として認めるケースはあるが、多くはしていない。県では県内に在学の大生らと協賛するなど、大学とのボランティア推進に関する連携の視野、ボランティア活動の活性化を目指す。

継続参加へ仕組み構築

竹内さんは「学生が被災地で活動しやすい環境を確保できれば」、中原さんは「災害とボランティア両方の目標からプロジェクトを推進していきたい」と話した。県が知事からは「現場の知と大学生の思い力で、より持続的な仕組みづくりに取り組んでいく」という思い。

会場で意気込みを語る武蔵野大の竹内さん(左)と中原さん(右)。県庁。





4.学生ボランティア募集中！その①

募集依頼が届きました！

ぼ活！チームで参加しよう

第31回日本トライアスロン選手権

2025 / 東京・台場

10.26 Sun



◆団体名：

日本財団 ボランティアセンター

◆申込締切：10月14日(火)

◆詳細はHPよりご確認ください。

【団体から学生の皆様へ】

トライアスロン日本一を決める国内最高峰の大会です。沿道やエイドステーションでの対応など、選手の熱気を間近で感じるスポーツボランティアの魅力が詰まった活動です。

4.学生ボランティア募集中！その②

募集依頼が届きました！



◆団体名：

日本財団 ボランティアセンター

◆申込締切：10月15日(水)

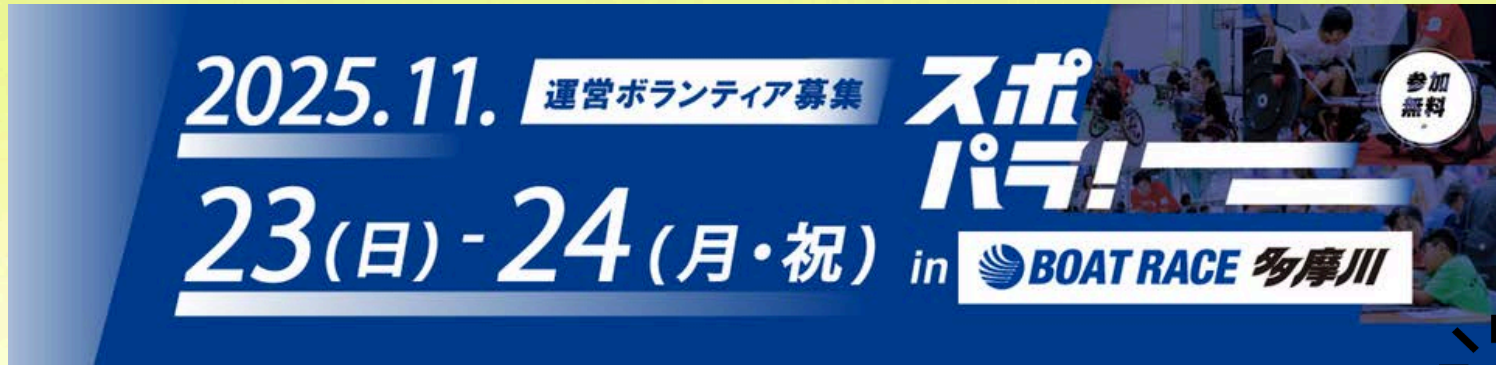
◆詳細はHPよりご確認ください。

【団体から学生の皆様へ】

オリーブの収穫を
お手伝いする2泊3日の
宿泊型ボランティアです。
震災遺構の見学や震災経験者
との交流も行います。

4.学生ボランティア募集中！その③

募集依頼が届きました！



◆団体名：

日本財団 ボランティアセンター

◆申込締切：11月5日(水)

◆詳細はHPよりご確認ください。

【団体から学生の皆様へ】

パラスポーツ体験会のサポートを
パラアスリートと一緒にいきます！
また、イベント全体のサポートもお
願いいたします。活動しながらイン
クルーシブスポーツの魅力に触れて
みませんか？

4.学生ボランティア募集中！その④

募集依頼が届きました！



親子もOK！

東京でできる被災地支援
写真洗浄ボランティア第2弾

11.29^土
9:00-12:00 / 13:30-16:30



◆団体名：

日本財団 ボランティアセンター

◆申込締切：11月13日(木)

◆詳細はHPよりご確認ください。

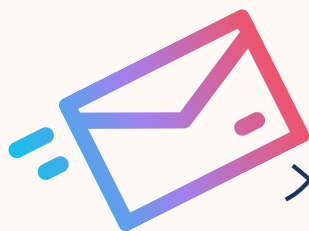
【団体から学生の皆様へ】

8月に実施して大好評だった活動です！

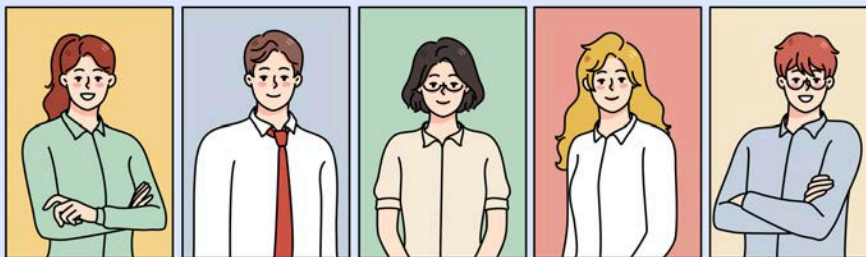
被災地支援はしたいが現地にはなかなかいけない方、被災地のためにできることを探していた方は、ぜひお申込みください！

ボラセン登録学生の皆様へ 皆さんの「声」お待ちしております！

こんな企画してほしいな、あったら面白そう！等の
ご要望などありましたら、
是非ボランティアセンターまで！



武蔵野大学ボランティアセンター
メール : v_center@musashino-u.ac.jp





これまでのボラセン通信は
こちらからご確認いただけます。

【武蔵野大学ホームページ】

問合せ先：武蔵野大学ボランティアセンター
メール：v_center@musashino-u.ac.jp